Multiagentを活用した知財実務調査の設計と運用

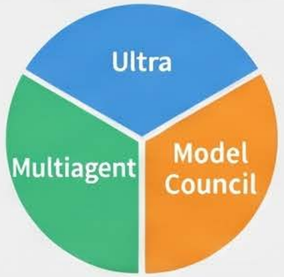
Multiagentの仕組みと動作モードの使い分け

エージェント間の直接連携



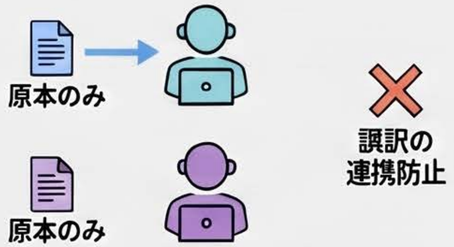
担当同士が証拠や疑問点を直接やり取りし共有ファイルを更新。

3つの動作モードの最適化



目的・構造に応じてUltra、Multiagent、Model Councilを使い分ける。

相互確認による誤り防止



照合担当に原本のみを渡し独立検証させることで誤訳の連鎖を防ぐ。

- 各担当からリード役に報告
- 担当同士が証拠交換・統合
- 独立検討し一致・相違点を整理
- 複数国公報の定型項目要約
- 分割・登録の発見と対比表更新
- 請求項用語の有力解釈と対立解釈

主要な知財業務におけるエージェント間の連携情報と人間が確認する最終成果物

業務種別	エージェント間で引き継ぐ情報	人が確認する成果物
新着特許監視（SDI）	変更された限定事項	差分、注目理由、開発部門への質問
侵害予防調査（FTO）	権利状態と不足仕様	行為別台帳、現行請求項、未確認理由
先行技術調査	構成要件と検索式	基準日前根拠、構成要件対比表

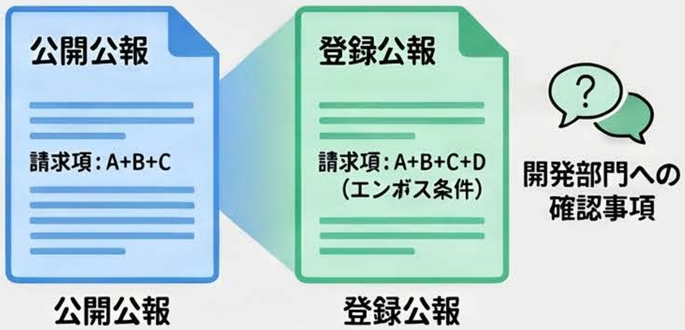
知財業務への適用と公報対比の実例

成果物に直結する役割設計



担当名称ではなく「発見した事実で誰の次の作業が変わるか」で連携を定義。

公開と登録の公報対比



エンボス条件等の限定追加を発見し開発部門への確認事項を特定。

導入効果の3大評価指標



既知重要案件の捕捉率、原文照合の正確性、費用対効果で総合検証。

Gemini Notebook